安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 :EzLabel FluoroNeo
;Sample Buffer
;RIPA Lysis Buffer
;Labeling Reagent
;Reducing Agent
;MW Marker

製品コード :WSE-7010

会社情報

会社名 : アトー株式会社
住所 : 111-0041 東京都台東区元浅草 3-2-2
担当部門 : 本社 顧客部
電話番号 : 03-5827-4861
ファックス番号 : 03-5827-6647
緊急連絡先 : 03-5827-4871
使用用途 : 試験研究用

2. 危険有害性の要約

RIPA Lysis buffer

GHS分類 : 水生環境有害性-急性有害性:区分3
: 水生環境有害性-長期間有害性:区分3

GHSラベル要素

シンボル : なし
注意喚起語 : なし
危険有害性情報 : H402 水生生物に有害
: H412 長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き

[安全対策]

P273 環境への放出を避けること

[廃棄]

P501 内容物/容器を都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託し廃棄すること

Sample Buffer

GHS 分類	:	急性毒性(経皮)	区分 4
	:	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
	:	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分2 (中枢神経系)
	:	水生環境有害性-急性有害性	区分 2

GHS ラベル要素

シンボル :

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : H312 皮膚に接触すると有害
H318 重篤な眼の損傷
H371 中枢神経系の障害のおそれ
H401 水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】 : P260 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
: P264 取り扱い後は手や顔をよく洗うこと。
: P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
: P273 環境への放出を避けること。
: P280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

【応急措置】 : P302+P352 皮膚に付着した場合:多量の水で洗うこと。
: P305 + P354 + P338 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
: P308+P316 ばく露又はその懸念がある場合:すぐに救急の医療処置を受けること。
: P317 医療処置を受けること。
: P362+P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合は洗濯をすること。

【保管】 : P405 施錠して保管すること。

【廃棄】 : P501 内容物、容器を都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託し廃棄すること

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 :混合物、溶液

Sample buffer

成分	含有量(%)	化学式	官報公示整理番号(化審法・安衛法)	CAS No.
ドデシル硫酸ナトリウム	8.00%	$CH_3(CH_2)_{11}OSO_3Na$	2-1679,1-275	151-21-3
その他	92.00%			

RIPA Lysis buffer

成分	含有量(%)	化学式	官報公示整理番号(化審法・安衛法)	CAS No.
(オクチルフェノキシ)ポリエトキシエタノール	1.00%	$(C_2H_4O)_nC_{14}H_{22}O$	1-408、1-308	9036-19-5
その他	99.00%			

4. 応急措置

吸入した場合 : 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合 : 多量の水と石鹸で洗うこと。
直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
医療処置を受けること。

目に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
医療処置を受けること。

飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

予想される急性症状及び遅発性症状 : 吸入 : 咽頭痛、咳。
皮膚 : 発赤。
眼 :発赤、痛み。
経口摂取 : 吐き気、嘔吐、下痢。

最も重要な兆候及び症状 : 皮膚炎を引き起こすことがある。

応急処置をする者の保護 : 個人用保護具を着用すること。

5. 火災時の措置

消火剤 : 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤 : 棒状放水

特有の危険有害性 : 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。
激しく加熱すると燃焼する。
火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法 : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火を行う者の保護 : 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

---

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置 :
全ての着火源を取り除く。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立入りを禁止する。
密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項 : 環境中に放出してはならない。

回収・中和 : 漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。

二次災害の防止策 : すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

---

7. 取扱い上及び保管上の注意

【取扱い】

技術的対策 :『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気 :『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項 : 取扱い後はよく手を洗うこと。眼を触らないこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
換気の良い場所で使用すること。
飲み込まないこと
皮膚との接触を避けること
眼に入れないこと

接触回避 : 『10. 安定性及び反応性』を参照。

【保管】

技術的対策 : 特別に技術的対策は必要としない。

混触危険物質 : 『10. 安定性及び反応性』を参照。

保管条件 : 施錠して保管すること。
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から離して保管すること。

容器包装材料 : データなし

---

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度 : 未設定

許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）

日本産衛学会 : 未設定（2008 年度版）

ACGIH : 未設定（2008 年度版）

設備対策 : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置すること。

保護具

呼吸器の保護具 : 適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具 : 適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具 : 適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣を着用すること。

衛生対策 : 取扱い後はよく手を洗うこと。

---

9. 物理的及び化学的性質

Sample Buffer

物理的状態

形状 : 液体

色 : 透明

臭い : なし

pH : 7.4～7.6

物理的状態が変化する特定の温度／温度範囲

沸点 : データなし

沸騰範囲 : データなし

融点 : データなし

引火点 : データなし

発火点 : データなし

爆発特性 : なし

蒸気圧 : データなし

蒸気密度 : データなし

密度 : データなし

溶解性 : データなし

オクタノール/水分配係数

: データなし

その他データ : なし

RIPA Lysis Buffer

物理的状態

形状 : 液体

色 : 透明

臭い : なし

pH : 7～8

物理的状態が変化する特定の温度／温度範囲

沸点 : データなし

沸騰範囲 : データなし

融点 : データなし

引火点 : データなし

発火点 : データなし

爆発特性 : なし

蒸気圧 : データなし

蒸気密度 : データなし

密度 : データなし

溶解性 : データなし

オクタノール/水分配係数

: データなし

その他データ : なし

10. 安定性及び反応性

安定性 : 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる

危険有害反応可能性 : 燃焼すると分解し、一酸化炭素やイオウ酸化物を含む有毒で腐食性のガスを生じる。強酸化剤や強酸と反応する。

避けるべき条件 : 燃焼

混触危険物質 : 強酸化剤や強酸

危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素やイオウ酸化物を含む有毒で腐食性のガス

11. 有害性情報

製品の有害性情報 : データなし

成分の有害性情報 **ドデシル硫酸ナトリウム (CAS 番号 151-21-3)**

急性毒性

経口 : ラットを用いた経口投与試験 LD50 値 1,200 mg/kg (SIDS(1991))、2,730 mg/kg (EHC 169(1996))

経皮 : ウサギを用いた経皮投与試験 LD50 値 約 600 mg/kg (SIDS(1991))、580 mg/kg (EHC 169(1996))

皮膚腐食性・刺激性 : ウサギを用いた皮膚刺激性・腐食性試験(OECD TG 404、GLP)において、PII:6.0, 6.78 から「highly irritating」(ECETOC TR66(1995)、IUCLID(2000))と記述されている。回復性に関する記述はない。

眼に対する重篤な損傷・刺激性 : ウサギを用いた眼刺激性・腐食性試験(OECD TG 405、GLP)において、「Modified Maximum Average Scores:16.00;moderately irritating、59.17;irritating、60.50;irritating」(ECETOC TR48(1992)、IUCLID(2000))と記述されている。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性 : モルモットを用いた Maximization 試験で皮膚感作性を示さない(ECETOC TR77(1999))と記述されている。

生殖細胞変異原性 : 生殖細胞 in vivo 変異原性試験の小核試験で陰性(SIDS(1991)、EHC 169(1996))と記述されている。

発がん性 : 主要な国際的評価機関による評価がなされておらず、データが不十分なので分類できない。なお「長期試験は行われているが、発がん性評価には不十分である。動物に混餌投与した試験で、アルキルサルフェイトの発がん性の証拠は得られなかった」(EHC169(1996)旨の記述がある。

生殖毒性 : EHC 169(1996)に記載の一次文献(東京衛研年報 (1976)によると、「マウス皮膚塗布による催奇形性試験において、母動物の体重増加が抑制された用量で、受胎率の低下、胎仔重量が低下し、発育遅延を認めた。口蓋裂や骨化遅延もみられるが有意なものではなく、本実験の口蓋裂の発生や着床の問題も含め、経口投与での試験の必要性がある」旨の記述があり、データ不足から分類できない。

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) マウス、ウサギ、モルモットでのエアロゾルばく露で気道刺激性がみられる(IUCLID(2000)、短期ばく露で気道刺激性がみられる(ICSC(1997)との記述がある

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

: ラットを用いた 2 週間混餌投与試験において「肝臓重量増加がみられたラットの病理組織検査で、肝細胞がわずかに腫脹し分裂肝細胞数が増加していた。これらは本物質の投与に順応したものと考えられる。また、腎尿細管の上皮細胞の空胞変性、腎糸球体の萎縮がみられた」(EHC 169(1996))旨の記述がある。なお、ウサギを用いた 3 ヶ月間経皮投与試験では「用量依存性の皮膚刺激性がみられた」(EHC 169(1996))旨のみ記述されている。

成分の有害性情報 (オクチルフェノキシ)ポリエトキシエタノール (CAS 番号 9036-19-5)

急性毒性: 経口 ラット LD50:4190mg/kg

腹腔 ラット LD50: 770mg/kg

静脈 マウス LD50: 70mg/kg

経口 ラットを用いた経口投与試験の LD50=4,190mg/kg(EO 9)、11,600mg/kg (EO 9)(CERI ハザードデータ集 2001-42(2002)) 、1,700mg/kg(EO 8-10) 、>28,000mg/kg(EO 40)(CERI・NITE 有害性評価書 No.105(2006))のうち、最も小さい値 1,700mg/kg を適用した。

市場で流通している一般的な製品の EO 鎖長は 9～10 である(CERI・NITE 有害性評価書 No.105(2006))ので、9EO の製品は LD50=4,190mg/kg となる。

皮膚腐食性・刺激性 : データなし

眼に対する重篤な損傷・刺激性 : 目刺激 ウサギ 1% 重度

CERI ハザードデータ集 2001-42(2002)のウサギを用いた眼刺激性試験の結果の記述に「中等度の刺激性を示す」とあり、CERI・NITE 有害性評価書 No.105(2006)のウサギを用いた Draize 法による試験の結果の記述に「OPE1、OPE3 は軽度の刺激性、OPE5、OPE6-8、OPE8-10、OPE12-13 は中等度の刺激性を示す」とあり、閾値法による試験の結果の記述に「OPE1、OPE3 は軽度の刺激性、OPE5、OPE8-10、OPE12-13 は中等度の刺激性を示す」とある。

生殖細胞変異原性 : データなし

発がん性 : データなし

---

12. 環境影響情報

ドデシル硫酸ナトリウム (CAS 番号 151-21-3)

水生環境急性有害性 : 甲殻類(ｱﾒﾘｶﾝﾛﾌﾞｽﾀｰ)の 96 時間 LC50＝0.72mg/L(SIDS, 1997)

水生環境慢性有害性 : 急速分解性が有り(SIDS, 1997)、生物蓄積性が無い(LogKow=1.6, PHYSPROP)と推測される。

(オクチルフェノキシ)ポリエトキシエタノール (CAS 番号 9036-19-5)

生態毒性

魚毒性: 藻類(セレナストラム): 96 時間 EC50=0.21mg/L (CERI・NITE 有害性評価書(暫定版)、2006)

生物蓄積性が低いものの(BCF<31 (既存化学物質安全性点検データ))、急速分解性がない(BOD による分解度:22% (既存化学物質安全性点検データ))。

残留性／分解性 : データなし

生体蓄積性 : データなし

---

13. 廃棄上注意

残余廃棄物 : 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装 : 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

---

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報 : なし

航空規制情報 : なし

UN 番号 : 非該当

国内規制

陸上規制情報 : なし

海上規制情報 : なし

航空規制情報 : なし

特別安全対策 : 輸送前に容器の破損、腐食、漏れのないことを確かめる。転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。

緊急時応急措置指針番号 : なし

---

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

: 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)
No.275 (ドデシル硫酸ナトリウム)
No.408 ((オクチルフェノキシ)ポリエトキシエタノール)

化審法 : 優先評価化学物質(法第2条第5項) (ドデシル硫酸ナトリウム)

労働安全衛生法 :皮膚等障害化学物質等(規則 第 594 条の 2 第 1 項)
:名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第 57 条)
:名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第 57 条の 2)
(ドデシル硫酸ナトリウム)
((オクチルフェノキシ)ポリエトキシエタノール)

毒物及び劇物取締法 : 非該当

消防法 : 非該当

航空法 : 非該当

その他法律 : 特になし

---

16. その他

本製品の安全データシート(SDS)は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、SDS 中の注意事項は通常の取扱いを対象にしたものです。製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は用途、使用法に適した安全対策を実施してください。

また、当社は、SDS 記載内容について十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。